

パンタール通信

南北米福地開発協会

会報

2008年8月1日

59号



南北米福地開発財団はパラグアイ、アスンシオンで行われたグローバルピースフェスティバル GPF（7月5日）の共催団体として活躍した。（5000人の高校生が市の清掃活動に参加）



70の学校が参加し、平和のバナーを作り、絵画のコンテストも行われた。

GPFは国家、民族、宗教の壁を超えて、人類の平和と統一を願って行われている。特に未来の世界と国の未来を担う青年たちが他の民族を理解し、社会に奉仕する精神を築くことの重要性を強調し、GPFの行われる都市では奉仕活動を推進している。フェスティバルでは『神の下一つの家族』を訴えて創始者の文顕進氏の講演を中心に、多くの国の文化が紹介された。全体の企画はパラグアイの上院議員、リリアン女史が中心となり、教育大臣、観光大臣、アスンシオン市長が参加して行われた。また、サッカーワールドカップでパラグアイサッカーチームの主将でありゴールキーパーとして世界的に有名であるチラベル氏がGPFのメインプロモーターとしてテレビでGPFを紹介した。



集まった3万人の聴衆に語りかける文顕進氏
人種を超えて他のために生きることの重要性を！

サッカースタジアム、オリンピアで行われ
たGPFに集まった若者たち（7月5日5時）

パラグアイGPF報告（柴沼記）

午後四時から始まるので、南北米財団事務局を二時に出発、歩いて三十分ほどでサッカースタジアムに到着した。歩く道すがらすでに多くの青年がスタジアムに向かって歩いており、関心の深さを感じさせられた。サッカーグラウンドにすでに多くの青年が立ち群がっていました。私はステージのまん前の席を取り開会まで待っていました。四時二五分ごろ、始まりました。司会者の一人は韓国人の女性で、パラグアイでは誰でも知っているテレビのコメンテーターでした。しばらくの間、エンターテイメントが続きました。どのグループの演奏や踊りもとても素晴らしいものでした。正直、パラグアイにはアルパ以外には何もないと信じていたので驚きました。エンターテイメントの後、学生達がアスンシオンの市内を清掃する映像が流されました。そして、国のために功労のあった方への表彰、そしてリリアン上院議員の挨拶の後、かわいいう女の子が平和を象徴する白鳩を離れた後、リリアン議員が文顕進氏を紹介しました。氏はパラグアイの国は南米大陸の中心の位置にあり、性格も温和、謙遜で、国は小さいが果たすべき大きな使命があると青年たちに国を愛する事の重要性と他の民族を理解し、他のために生きることが世界平和を築く下になると話された。そしてたびたび、神の下に私達の一つの家族である事を強調され、そのことを世界のすべての人が理解するなら未来は希望のある社会に成ることを強調された。



7月6日の新聞記事





オリンポ市長、下院議長、文顕進氏、チラベル氏、観光大臣等が出発式に参加した。

チャコ地方での一七〇キロメートルの牛の移動（ABC新聞六月一九日）

オリンポ 発

昨日、フエルテ オリンポにおいて平和と統一のための牛追い移動が始まった。

牛追いは九日間にわたって行われる予定でこの間約五〇名の参加者によりチャコ地域の二七〇キロメートル以上を走行されることになる。ここに参加する主な人々の中に話題の宗教運動の霊的指導者であり、創立者の息子のヒョーンジン ムーン氏がいる。氏はこのイヴェントに参加のため米国からやってきた。またかつてのパラグアイのナショナルチームでゴールキーパーとして活躍したホセ ルイス チラベル氏もいる。この催しの主な目的は、この地域の自然を讃美、鑑賞し保護を促進化させるところにあると組織者側（南北米福地財団）は説明している。牛移動の始まる前にオリンポ市のオベリスコ広場において出発式典が開催された。

その中でチラベル氏はパラグアイが外国人にとって汚職などであり芳しくないイメージを持って見られる風潮の中で、今回のイヴェントの主宰者たちがこの国を将来投資するべき国として選び考えてくれていることに対して誇りを感じるべきだとも述べた。

カルロス アルミロン記者



参加者は夜の時間、今後の世界と国のために有用な人材となるにはとの話し合いが持たれた。

七月一二日に行われた

一日環境セミナー参加者の感想

『貴重なお話をありがとございました。小中学生のときから環境の問題について作文や小論文を発表したり関心を持ったり、できることはしてきました。恥ずかしいことに「不都合な真実」はまだ見ていませんでした。今回見ることででき、また、北里大学の陽（みなみ）先生にも温暖化のお話をお聞きしましたので、理解が深まりました。解決策はないものか？と、考えておりましたがレダ、パンタナールの計画のことをお聞きすることができ希望ができました。仕事先の社長もゴアさんにお会いしたり環境に関心のある方ですし、私もインドに行ってきた経験があります。今後でもできることは学んだり協力させていただきます。よろしくお願い致します。

（五十歳男性、横浜）

人はすばらしい！！そして地球を救えると、セミナーに参加すると叫んでしまうほどだ。

「不都合な真実」のドキュメント映画で、久しぶりの感動を覚えた。

「共生、共栄、共義主義」の実践がここにあると確信を持った。地球を救う活動が出来ることを伝えて、未来をつくっていききたい。

三種の樹は、地球の救いの樹だ。地球を救う活動は人が必要なので、多くの人がセミナーにふれることがきたらよいと思うし、

環境問題を身近な問題とし、考えられるセミナーだった。

（五十三歳女性、川崎市）

第八回国際協力青年奉仕隊隊員名簿

磯 利弘（名古屋大学 三年）

桑畑二チーア（会社員）

藤波秀和（日本大学一年）

村上可奈子（東京農業大学 三年）

佐野徳俊（Jr STF スタッフ）

三科貴大（日大通信在学一年）

山田和泉（香川大学 教育学部卒）

坂田浩美（Jr S

TFスタッフ）

右の方が多くの参加希望者の中から選ばれました。今年は温暖化問題が国連の主要な課題の一つとして関心を持たれる中、南米のパラグアイにて植樹活動を展開して来ます。また、インディヒナの村に文具等を寄贈します。



6月にボランティアでレダに到着した伊達農業研究員と木島君（ジャトロファの種の生育状況を調べる。

国際協力青年 ボランティア支援金

再度のお願い

八月二〇日、成田を出発します。すでに現地のインディヒナの村では準備万端、来てくれる事を心待ちにしています。村に寄贈する文具類は準備が整いました。青年たちが現地に行く旅費の一部援助と現地で植樹をするための苗木と保護柵の購入のための資金がまだ不足しています。再度のお願いで恐縮ですが左記の口座に支援金をお願いいたします。



南北米福地開発協会 事務局
〒二二二一〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口三十一番十五

岩崎ビル四F

電話

〇四四一八二九一二八二一

Fax

八二九一二八二〇

会費納入

郵便口座
〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦
E-MAIL office@sd-nsa.jp

ホームページ
http://www.asd-nsa.jp